

# 常総復興の拠点「えんがわハウス」実現のためにお力添えをお願いします

人が集い、交流し、仲間や生きがいを得ること、次世代を育てることが復興に繋がります

茨城 NPO センター・コモンズは 2015 年 9 月の関東豪雨災害で常総の事務所が被災して以来、現地の NPO として助け合いセンタージュントスを立ち上げ運営してきました。多くのボランティアのコーディネートをしながらか被災者への情報や食料、支援物資の提供、外出や引越しの支援などに取り組んできました。これまでご支援いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

常総市の復興における課題は、持ち主が直せない空家の増大と人口流出、高齢者などで引きこもりがちな人が増えていることです。こうした家の再生に取り組む中で、常総水害前日まで診療が行われていた「旧片野医院」と築 100 年の住宅が災害後に空家のままになっていることを知り、地域の方々からも思い出のある場を残してほしい、いつでも気軽に行ける場として再生してほしいとの声が寄せられました。

私たちは昨秋からこの家の改修の準備として片付けや泥落としの活動に取り組んできましたが、500 坪の土地と建物を購入しなければこの場を残せない状況に直面しました。そこで新たにジュントス・常総復興まちづくり株式会社を設立し、下記のような形で資金をつくることにいたしました。

えんがわハウス実現にかかる費用		資金調達方法	
土地建物取得	3000 万円	出資	500 万円
改修・設備費	3140 万円	寄付	1000 万円
合計	6140 万円	行政補助	2140 万円（選定）
		融資	2500 万円（個人・金融機関に依頼）
（土地の一部は購入までの間、賃借予定）		合計	6140 万円

改修費は、空家を高齢者などの生活支援拠点に改修するための国土交通省の補助事業の選定をいただきましたが自主財源を 1 千万円作る必要があります。なんとか出資または寄付で資金を調達しつつ、市民の力で、人と人の絆を深めるための「えんがわハウス」を実現したいと思います。

また、私たちは、常総市に多く暮らしている日系ブラジル人などの学習支援を 7 年間行う中で、学校就学前の外国の親子への支援と若者の仕事づくりが重要と考え、多文化保育を事業化することにしました。広い庭のある「えんがわハウス」は世代や言葉の壁を超えて人が育つ場にもなります。

常総市には保育を受けていない外国籍の乳幼児が 160 名もいます。行政と連携してこうした保育ニーズに応え、バイリンガルの若者が保育や介護などの分野で活躍できる状況を作りながら融資の返済財源も生み出していきます。

災害復興も空家再生も保育事業もいずれも大きなチャレンジですが、多くの方の想いを重ね共に活動することで必ず実現できると信じて取り組んでまいります。

ついては、本事業へのご支援についてご高配賜りたくお願い申し上げます。

2019 年 12 月

ジュントス・常総復興まちづくり株式会社

代表取締役 横田 能洋

## 「えんがわハウス」における3つの関連法人の関係と役割

法人名	認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コムンズ	一般社団法人グローバルセ ンター・コムンズ	ジュントス・常総復興 まちづくり株式会社
設立年月日	1998年11月15日	2017年1月13日	2017年10月3日
目的	地域の課題を市民主体で解決する取り組みを支援し、自らも寄付を募り制度外福祉の実験を行う。	常総市周辺に暮らす障害児者と家族を支援し、バリアフリーと多文化ソーシャルワークを広げる。	常総市の水害からの復興のために空家の改修と再生を行い暮らしやすい地域づくりに寄与する
主な活動	NPO 設立運営相談。生活困窮者相談、就労支援。常総の外国の子の学習支援。水害後に助け合いセンター-juntos 立ち上げ活動を継続中。	障害者の就労支援（A型）と障害児の放課後等デイサービスを運営  （外国の子や若者に障害や引きこもりが多いことから外国籍住民に重点）	災害後に手付かずになっている住宅などを購入または借り受けて改修し、地域に必要な場（住居や地域拠点）として再生する。
片野医院プロジェクトでの役割	全国から災害に関する視察研修や改修ボランティアの受け入れ。災害被災者の生活相談、移動支援。  拠点での多文化保育の実験（外国人保育人材の育成、就学前の日本語習得支援と、母親に対する日本での子育てや教育に関する情報提供と職域開拓）  拠点での生活支援に関するソフト事業のコーディネートをしつつ家賃を会社に払う。	住宅などの改修作業の一部を請け負い、障害がある人が訓練を受けて改修、片付けを行い復興に寄与する。  えんがわハウスの清掃・接客・庭の手入れ・調理や保育の補助などで拠点にマンパワーを提供。地域の高齢者宅向けの生活支援サービスを担当。  拠点での福祉サービスを通じて行政地域から収入を得て会社に家賃を払う。	片野医院の所有者から建て物等を購入し、出資などで改修のための資金を調達し、改修チームを組織して改修を行うほか、補助金が出るまでの間の融資を受け、返済する。  改修後は、施設管理者として左記の2法人や利用者などに施設を貸し出し、家賃収入を得る。  家賃収益の中から、市内の空家の改修財源を作り、空家の再生を促進する。
主な財源	災害支援寄付、多文化保育への公的助成など	国保連からの給付金、便利屋収益、防災グッズ収益	出資金、行政や個人からの借入れ、国の改修補助金、家賃、使用料収入

### えんがわハウス実現のための体制図



